

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p><b>対象地域の中等学校にジェンダー平等を浸透させ、より多くの女子が改善された環境で中等教育を受けられるようになる。</b></p> <p>第1年次は、教師、子どもクラブリーダーへのジェンダートレーニングを実施、学生寮の建設や給水設備の整備、ジェンダーの視点を用いた施設の維持管理トレーニングも行った。全教師対象のジェンダートレーニングで各校が作成したアクションプランに基づき、女子生徒への安全を配慮して、トイレや寮のエリアを男女別に分けたり、以前より多くの女子クラスリーダーが選出されたりと、学校におけるジェンダー平等の実現に向け、具体的なアクションが取られた。</p>
(2) 事業内容	<p>各活動の進捗状況は以下のとおり。</p> <p><b>1. 教育環境の改善</b></p> <p>1-1～1-2 <u>建設業者の入札・特定、学校・PTAへの説明会、監理トレーニング</u>          1月27日に学生寮建設の対象校であるパーカット中等学校にて説明会・監理トレーニングを実施し、学校とコミュニティから40人（うち女性8人、女子5人）が参加した。学生寮建設の業者を選定するため入札委員会（当団体、県郡教育・スポーツ局、建設対象校）を設立し、業者の選定を行った。</p> <p>1-3～1-5 <u>建設工事、給水設備工事、備品の調達・搬入</u>          パーカット中等学校にて学生寮、調理場、トイレ、給水設備の建設を3月～8月に行い、新年度が始まる9月には、63人の生徒（うち63人女子）が新しい学生寮2棟に入居した。また、既存の学生寮と新規学生寮の生活環境に大きな差が出ないように、既存の学生寮3棟に追加で布団、蚊帳、調理用品などの備品を提供した。なお、建設工事後、新規建設した調理場やトイレに十分な量の水が供給されていないことが判明したため、給水設備のパイプラインの配置変え等対策を検討中。</p> <p>上記学生寮建設に加え、追加活動として、プービンサイ中等学校およびその周辺の村で給水施設の整備を10月～11月に行い、給水タンクの新規設置、修繕、学校と学生寮のトイレ、水浴び場への配水管設置を行った。</p> <p>1-6～1-7 <u>教師・PTA対象上記施設維持管理トレーニング、教師・PTA対象学生寮運営トレーニング</u>          パーカット中等学校にて9月4～5日、教師およびコミュニティの代表14名（うち女性7名）、21日に生徒代表（学生寮リーダー）12名（うち女子6名）に学生寮、トイレ、調理場、給水設備の維持管理に関するトレーニングを行った。施設の維持管理ガイドブックを作成し、トレーニング後、学生寮に住み込み管理を担う教師と、学生寮に住む生徒がガイドブックに沿って施設の維持管理を行っている。</p> <p>また、プービンサイ中等学校においても、給水設備設置後の11月22日～23日に給水設備も含めた施設の維持管理トレーニングを実施し、学校では給水設備の維持管理担当となる教師と生徒4名（うち女性・女子2名）、コミュニティでは村長、村教育開発委員をはじめとした14名（うち女性3名）が参加した。</p> <p><b>2. ジェンダー平等促進・人材育成</b></p> <p>2-1 <u>事業開始ワークショップ</u>          1月26日に第1年次対象の5校のジェンダー担当教師、校長、生徒代表、</p>

県郡教育・スポーツ局職員計22人（うち女性6人、女子2人）を対象にボケオ県パウドン郡で事業開始ワークショップを実施し事業の年間計画について協議した。

#### 2-2 ジェンダー評価ツール開発

事業開始時における対象校の教師、生徒のジェンダー平等に関する意識や態度、施設を含む教育環境をジェンダーの視点から評価するため、5月に自己資金を用いてベースライン調査を10校で実施した。

ベースライン調査報告書は別添2参照

#### 2-3 トレーニングマニュアル、テキスト開発

コンサルタントを雇用し、教育・スポーツ省（中央）と協働でジェンダートレーニングを実施するためのトレーニングマニュアルを開発した。トレーニングの内容は、1）ジェンダーに関する基本的な知識、2）ジェンダーに基づく暴力、3）ジェンダー平等な学校で、第1年次ではドラフト版としてトレーニングで使用し、第2年次に最終化する予定である。

#### 2-4 現地スタッフ・県郡教育・スポーツ局職員対象ジェンダートレーニング

5月15日～19日の5日間にわたり、県郡教育・スポーツ局職員3人（うち女性1人）を対象に学校でジェンダー平等を促進するためのジェンダートレーニングを実施した。本トレーニングを受けた郡教育・スポーツ局職員は、その後のジェンダー担当教師、全教師、PTAへのジェンダートレーニングに当団体スタッフと共にトレーナーとして参加した。

#### 2-5 ジェンダー担当教師の選出、トレーニング

5月22日～26日に5日間のジェンダートレーニングを行った。各校の校長・副校長5人（うち女性0人）、ジェンダー担当教師10人（うち女性5人）が参加し、ジェンダーの基本的知識について学び、各校をジェンダーの視点から分析した。

#### 2-6 全教師対象トレーニング

当団体スタッフと教育・スポーツ省（中央）・局職員（県、郡）がジェンダー担当教師をサポートしながら、5校で全教師対象のジェンダートレーニングを各校3日間ずつ行った。トレーニングの最終日には、各校でジェンダー平等を促進するためのアクションプランを作成。ジェンダー担当教師が中心となりアクションプランの進捗管理を行っている。

学校名	実施日	参加者人数
パウドン	8月16日～18日	48人（女性19人）
ポングラ	8月20日～22日	53人（女性20人）
パーカッド	8月23日～25日	18人（女性8人）
プービンサイ モクソ	8月23日～25日	27人（女性8人）
合計		146人（女性55人）

表1. 全教師対象トレーニング詳細

#### 2-7 PTA対象トレーニング

10月2日に対象5校のPTAメンバー（保護者代表）16人（うち女性6人）に対し1日のジェンダートレーニングを実施した。

#### 2-8 通報・相談窓口の設置

各対象校で生徒がジェンダーに関する悩みやジェンダーに基づく暴力につい

て通報・相談する窓口を設置する計画であったが、事業対象地ではカウンセリング、心理サポートなどは全く新しい分野で、ジェンダー担当教師が適切な対応をすることが難しいことが判明した。そのため、第2年次で、ジェンダー担当教師に対しカウンセリングのトレーニングを行ってから相談・通報窓口を設置することとした。(変更報告書第1期5号で報告済み)

2-9～2-10 ジェンダー担当教師対象子どもクラブ設置トレーニング

ジェンダー担当教師対象子どもクラブ運営指導トレーニング

子どもクラブ設置、運営方法、子どもクラブリーダーへのトレーニング方法についてのガイドブックを作成。対象校5校のジェンダー担当教師10人(うち女性5人)に対して、上記内容のトレーニングを9月29日～30日に実施した。10月に各校で全校生徒に対しての説明会を実施し、子どもクラブリーダーを募集。自己推薦の他、少数民族の女の子や障がいがある生徒などリーダーになる機会が限られている生徒用にクォータ枠も準備した。

学校名	説明会 実施日
パウドン	10月09日
ポングラ	10月09日
パーカッド	10月09日
プービンサイ	10月16日
モクソ	10月09日

表2. 子どもクラブ説明会詳細

2-11 子どもクラブリーダー対象トレーニング

各学年から2～4人ずつ子どもクラブリーダーを選出し、5校合計90人(うち女子45人、障がいがある生徒3人)へ10月から11月にかけてジェンダートレーニングを実施した。

学校名	トレーニング 実施日	トレーニング参加者人数
パウドン	10月27-28日	28人(女子14人)
ポングラ	11月10-11日	28人(女子14人)
パーカッド	11月3-4日	14人(女子7人)
プービンサイ	10月25日、	10人(女子5人)
	11月1, 8, 15日	
モクソ	10月20-21日	10人(女子5人)
合計		90人(女子45人)

表3. 子どもクラブリーダー対象トレーニング詳細

また、ジェンダー平等、女子教育や女子のリーダーシップについて啓発するツールとして、ポスター、ピクチャーカード、ノート、メッセージポロシャツを製作し、配布した。第2年次より、これらのツールを用いて子どもクラブリーダーが全校生徒に対し啓発活動を行っていく予定である。

ツール	数量	配布先
ポスター	320枚	対象5校、PTA、村、教育省・局

ピクチャーカード	130セット	対象5校（子どもクラブリーダー、教師）教育省・局
ノート	4,000冊	対象5校（全校生徒、教師）、教育省・局
メッセージポロシャツ	330枚	対象5校（子どもクラブリーダー、教師）PTA、教育省・局

表4. 制作・配布した啓発ツール

<p>(3) 達成された成果</p>	<p><b>1. 教育環境の改善</b>          &lt;期待される成果&gt;          対象校に通う生徒がジェンダーに配慮した教育施設を使えるようになる。学校は施設の維持管理方法を身に着ける。</p> <p>&lt;指標&gt;          ・対象校生徒の80%が教育環境にジェンダー視点を取り込まれたことを実感する：0%達成（第2、3年次の指標のため）          ・教師（計55人）、PTAの70%が施設の維持管理トレーニングの事後テストで80%の正解率を示す：46%達成（施設の維持管理トレーニングに参加した28人のうち80%の正解率を示したのは13人＝46%。コミュニティに非識字者がいたため正解率が想定より低め。）</p> <p><b>2. ジェンダー平等促進・人材育成</b>          &lt;期待される成果&gt;          対象10校でジェンダー平等に向けた取り組みが実践される。</p> <p>&lt;指標&gt;          ・教師の80%以上がジェンダー平等を理解し、ジェンダー理解度調査で改善が認められる：100%達成。事後テストでは事前テストに比べ、知識と意識の改善が見られた。全教師対象のトレーニングでは、対象5校の全教師の80%に当たる146人が参加。</p> <p>・通報・相談窓口の活用が奨励され、毎期5件通報・相談実績が記録される：0%達成（第2、3年次の指標のため）</p> <p>・対象10校で計51の子どもクラブが設立され、生徒の80%が子どもクラブの存在と目的を理解して活動に参加する：0%達成（第2、3年次の指標のため。）第1年次は、5校で計29の子どもクラブを設立した。</p> <p>・子どもクラブリーダーの80%が学校でのジェンダー平等が進んだと認識する：0%達成（第2、3年次の指標のため）</p> <p>・対象10校でジェンダー関連の章を含む学校開発計画が完成する：0%達成（第3年次の指標のため）</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>第1年次に学生寮を建設したパーカット中等学校では、14人（教師2人、生徒12人）が学生寮を含む施設の維持管理委員として活動していく。修繕が必要な場合は、学校の管理費予算を充てる。コミュニティの給水タンクの維持管理はコミュニティの維持管理委員（16人）が行い、住民1人から毎月5,000LAKを集金し修繕費の資金とする。給水設備を整備したプービンサイ中等学校も同様の管理方法で、学校では4人（教師2人、生徒2人）、コミュニティは10人の維持管理員が給水設備の維持管理を行う。</p>

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

	<p>ジェンダートレーニングは、郡の教育・スポーツ省の職員にマニュアル作りから関わってもらい、郡の教育・スポーツ省職員やジェンダー担当教師をトレーナーとして育成、能力強化をすることで活動の持続性を担保する。第2年次より、郡の教育・スポーツ局職員や学校が活動への主体性を持ち、事業終了後も活動の成果や子どもクラブの活動などが継続するように、中央、県、郡の教育・スポーツ省・局職員、ジェンダー担当教師と共に参加型のモニタリングを四半期毎に実施し、活動の成果、課題、学びを共有していく。第3年次からは子どもクラブのリーダーもモニタリングに参加し、子どもの参加と主体性を高めていく。</p>
--	---